

KUMAMOTO

GREEN Rotary-Club

The Weekly Bulletin

Kumamoto green rotary-club district 2720 rotary international



ロータリー:
変化をもたらす

2017~2018年度テーマ

国際ロータリー 「変化をもたらす」

R.I.会長 イアンH.S.ライズリー

地区方針 「ロータリーを奨励し、ロータリーを楽しもう」

R.I. 2720 地区 ガバナー 永田壮一

熊本グリーンRC 「ロータリーを楽しみ、会員相互の研鑽・親睦を深めよう」

熊本グリーンRC会長 河野景治

■例会日：毎週月曜日 18:30~19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：河野景治 ■幹事：中島三千代 ■会報担当：長野義文
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー
第2720地区

熊本グリーンロータリークラブ週報

【2017年12月4日】

第1282回

2017-2018年度 第19回

【例会】

1. 開会・点鐘 18:30

2. 食事と交歓

国歌「君が代」

「友と語ろう」(熊本グリーンRCの歌)

来訪者紹介 (河野 景治 会長)

卓話者

県立美術館学芸員 井上 正敏 氏

友情の握手

会長スピーチ (河野 景治 会長)

12月に入りました。年末という事でもありますが、ロータリークラブでも年間のエポックの月です。18日は「年忘れ家族会」であると共に「年次総会」でもあります。グリーンクラブでも本日の例会後に理事会に先駆けて指名委員会を開催し、その指名委員会にて次年度役員について審議され、その後の理事会で承認後、18日の総会にて決議されます。今年も本田会長エレクトにて原案が作成されております。会員皆様のご協力を宜しくお願いいたします。さて、2日(土)は地区の職業奉仕セミナーが開催されました。前半はロータリー会員による体験に基づく基調講演や発表がございました。私は、ロータリアンによる自身の職業についての卓話が大好きで、何時もそのお話の幾つもの事柄

が頭の中に残り、糧となっております。今回のセミナーの時も11月21日の職場訪問の時を思い出しながら、その卓話を聞き入った次第です。後半は「職業奉仕はロータリーの金看板か〜」をテーマとして、6~7名に分かれてのグループディスカッションが行われました。良い意味で結論を纏めないディスカッションでしたので、参加ロータリアンの職業奉仕に対する考え方や、クラブでの職業奉仕活動、個人の職業奉仕活動等々、時間一杯協議でき、見聞を広めることができましたと存じます。参加ロータリアンが職業奉仕に対する考え方を再認識したり、所属するクラブへその考え方の多様性や活動事例がフィードバックされる良い機会であったかと感じた次第です。

幹事報告 (中島 三千代 幹事)

■、報告事項(その他のロータリー関係)

①「第9回熊本中央RCチャリティゴルフコンペ」参加のお礼が来ております。先日開催されましたゴルフコンペの際は107名と多数の参加者があり、参加費の一部をチャリティとして、テレビ熊本を通じ「FNSチャリティキャンペーン2017年度支援国ボリビア多民族国へ11万円寄付されたそうです。

卓話予定

12/11 「平成から新時代を考える」長野良市氏(写真家)

12/18 「年忘れ家族会」※年次総会を例会の時間に開催。

12/25 「定款第8条第1節に基づき」例会取り止め

1/5(金)「熊本市域17RC合同新春合同例会」(12:30~例会/13:00~14:00懇親会)

★熊本グリーンRC会員は、ホストクラブの熊本北RCのサポートで11:00には集合)

[熊本グリーンRC ホームページアドレス] <http://www.kg-rc.com/>

②カナダ・トロント国際大会ツアーのご案内（永田ガバナーより）
 地区で2018年6月23日（土）～5日間コースと7日間コースの国際大会参加ツアーを企画しました。多数のご参加をお待ちしております。（ご興味がある方は事務局までお尋ね下さい）

■ 例会変更・取止め

<例会変更>

【熊本平成RC】

①12月20日（水）の例会は、クリスマス家族例会のため、同日19:00よりANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイにて行います。

<例会取止め>

次の例会は、定款第6条第1節に基づき、例会を取りやめます。

【熊本平成RC】 12月27日（水）

次の例会は、定款第8条第1節に基づき、例会を取りやめます。

- 【熊本城東RC】 12月25日（月）
- 【熊本グリーンRC】 12月25日（月）
- 【熊本東RC】 12月26日（火）
- 【熊本東南RC】 12月27日（水）
- 【熊本北RC】 12月28日（木）
- 【熊本熊本RC】 12月29日（金）

出席報告

（栗山義則クラブ管理運営委員（出席担当長））

	会員総数	21名	出席率
12月4日	出席免除会員数	1名	55.00%
	計算上会員数	20名	
	出席会員数	11名	
11月20日	前回の出席会員数	9名	68.42%
	メイクアップ数	4名	
	修正出席会員数	13名	
メイクアップ済み会員及びメイクアップ訪問先			
<ul style="list-style-type: none"> ・11/13 熊本城東RC 河島 君、仙波 君 ・11/28 熊本グリーンRAC 上田 君 ・11/29 熊本水前寺公園RC 田中 君 			

委員会報告

①「ロータリーの友」12月号内容紹介
 報告者：上田 観一クラブ広報委員長

スマイル（本田 悟士 会員）

○●河野 景治 君、中島三千代 君
 ○ 荒木 一之 君
 ○ 「本日、卓話を頂きます。井上正敏様のご来訪に感謝申し上げます。また、土曜日の職業奉仕セミナーに参加の会員の皆様ありがとうございました。感謝のスマイルを申し上げます。」
 ○●河島 一夫 君
 ○ ①「今日の卓話は元県立美術館学芸員の井上正敏先生です。地震で被害を受けた美術品のレスキューに御尽力していらっしゃる方です。少しでも私共も手助けが出来たらと思っております。よろしくお願い致します。」
 ○ ②「先日、以前、米山奨学生だった曹娥（そうが）さんの御主人が来店されました。そこで、スマホの動画で曹娥さんと話す事が出来ました。」
 ○●本田 悟士 君、十時義七郎 君
 ○ 栗山 義則 君、福島 和見 君
 ○ ①「井上様のご来訪と卓話に感謝してスマイルします。本日の卓話楽しみにしております。宜しくお願い致します。」
 ○ ②「12月に入り寒さが増して来ました。皆様くれぐれもご自愛下さい。」



3. 例会プログラム



卓話者：元県立美術館学芸員 井上 正敏 氏
演題：「熊本地震 田中憲一作品の救う」

「熊本地震で傷ついた田中憲一先生の絵画、御船の美術を守りたい！」プロジェクト
元県立美術館学芸員 井上 正敏 氏

趣旨：「2016年4月14日21時26分、熊本を2度にわたる震度7の激震が襲い、御船町の宝である故・田中憲一先生のアトリエが全壊しました。雨・風にさらされてカビが生えてしまった作品を蘇らせて、町に活気を取り戻したい！

地元熊本は震度7を観測する2度もの地震に襲われ、その強い揺れにより8,000棟以上が全壊しました。その中には、御船町の文化振興にも尽力された洋画家、故・田中憲一さんのアトリエがありました。

4月16日の2度目の震度7の揺れに耐えきれず、田中先生のアトリエは全壊。町民の1人が「町の宝である田中先生の作品が、このままだとゴミになってしまう」とボランティアの方々と共に全壊の家屋の中から決死の想いで150点もの作品を運び出し、私たちが保護しました。この傷ついた絵画を蘇らせるため本プロジェクトを立ち上げました。

大半がカビが生えるなど損傷をおっており、緊急措置としての殺カビ燻蒸作業（カビを殺す殺菌処理）は完了しましたが、この作業とこれから修復できるところへ運送する費用だけでも120万円がかかることが分かりました。今後、完全な修復までには5年ほどかかる予定ですが、修復が済んだあとには熊本県、御船町などの地元で協力し、「熊本地震復興記念作品展」のようなものを開催したいと考えています。

田中憲一先生は、御船町で生まれ、地域の文化活動のすぐれた指導者であり、県内だけでなく九州画壇でも高い評価を得ていた独立美術協会会友の画家でした。

田中憲一先生は御船町役場の大陶板壁画の作者としても知られ、地域の文化の向上のために活動する「くまもとミフネ美術工芸倶楽部」を創設されました。亡き後の1996年には、田中氏の人柄と芸術を愛する町民有志を中心に実行委員会が組織され、熊本県立美術館分館で「田中憲一画業40年展」を開催しました。しかし、その時の出品作のほとんどが、今回の地震の瓦礫の下敷きとなりました。

先生の作品のような近現代絵画は、町民の方々に「町の宝」という認識があっても、まだ「文化財」の指定は受けておらず、公的な支援も受けられずにいます。行政当局・役場職員も必死になって、被災者支援の活動をしており、由緒ある神社やお寺、指定文化財等の被害も甚大で行政が仮設住宅の建設などで手が回らない状況です。

そこで、故・田中氏の人柄と芸術を愛する町民有志が集まり、早急に必要な殺カビと修復にむけての運送作業等の費用を集めるプロジェクトを立ち上げました！

地震のあと数日の大雨にあった作品は、キャンバスが濡れ、カビが発生し、保管している間にも急激に損傷が激しくなっていました。

たまたま地元作家の被災状況を調査していた熊本県立美術館の学芸員がこのことを知り、熊本市出身で今回の故郷の被害を心配されていた修復家の岩井希久子さんに知らせたところ、岩井さんや保存科学の専門家である筑波大学の松井敏也准教授が、企業などの協力も得て御船町に駆け付けて下さいました。



御船町にある故 田中憲一氏の
全壊したアトリエから作品を救出

調査の結果、作品の劣化を防ぐために、作品のカビ燻蒸（作品についているカビの菌を殺す）処理を取り急ぎ終わらせ、1点ずつ脱酸素密閉の保全処理を行いました。

この後は、筑波大学にお願いして運送し、専門家の指導のもとに、4~5年ほどの時間をかけて修復作業を行う予定にしています。

瓦礫の中から救い出された御船町の宝、その修復復興プロジェクトは町全体の復興の希望となる！

身の危険を顧みず、大規模全壊の家屋の中から作品を引き出し一命を取り留めた田中先生の作品。そのような経緯から、修復された作品が再び町に戻った時にはまだまだ復興途中であろう町民に勇気を与え、復興のシンボルとなって町を盛り上げていく存在になるだろうと希望も込めた今回のプロジェクトです。

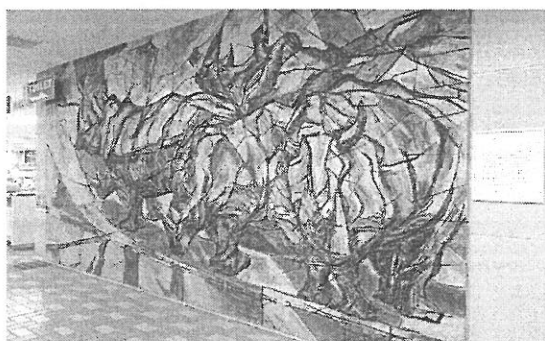
上益城郡御船町は、2度もの震度7の激震で、道路、生活インフラ、住居、職場が大規模に被災し、その後の大雨の被害も多く、いまだに車中泊や体育館などに避難され、仮設住宅の完成をまっている方々が多くおられます。町民の宝だった絵画の修復を通じて、御船町の町民はもちろん、熊本県民にも勇気を与えることが出来ればこんなに嬉しいことはありません。どうか、私たちの宝と一緒に復活させて頂けないでしょうか？ご支援、宜しくお願い致します！



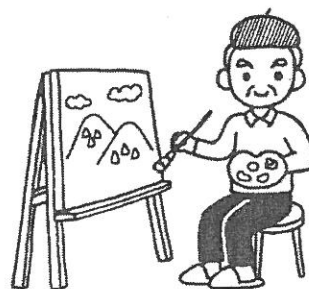
岩井先生自ら田中作品の調査・点検と
応急処置作業をしてくださいました



全壊して足場の悪い中の作品救出作業



御船町役場の大陶板壁画



4. 閉会・点鐘

* 例会終了後、第2回指名委員会及び定例理事会開催。